

会長の年頭挨拶

歴史教育の必要

(N)日本ソーシャルワーカー協会会長 鈴木五郎

平成 21 年 1 月 5 日 福祉新聞「年頭所感」より

半藤一利氏の「昭和史戦後編」を読むと第二次世界大戦に負けて米国占領軍が進駐してきたとき、まず実施したことは、日本人がふたたび戦争などに立ち上がれないように精神的に骨抜きにしようということで、学校における歴史と道徳教育の禁止令をだしたということが記されている。半世紀以上を経て今日わが国における精神文化の荒廃、例えば殺人事件の半数以上が親殺し子殺しであったり、先進国で唯一自殺率の高い国であったりする現実をみるとアメリカの戦略に見事にのせられたのではないかと感じる。社会福祉士養成は二十年ぶりに新カリキュラムになったが、ここでも「わが国の社会福祉の歴史」という科目はない。石井十次や綱脇龍妙、長谷川保や糸賀一雄、大原孫三郎や渋谷栄一氏ら明治期以降わが国の先達が積み重ねてきた社会福祉事業実践の素晴らしい精神文化はないがしるにされ伝えられない。若者に日本の福祉の精神文化を伝えて自信と誇りをもたせることこそが人材育成の要ではないのだろうか。